

2017年度事業報告書

(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

特定非営利活動法人札幌チャレンジド

【特定非営利活動に係る事業】

1. 就労継続支援サービス（A型）事業

2017年度は、雇用契約者26名、非雇用契約者18名が就労継続支援サービス利用者として仕事に従事した。

チャレンジドへの支払い総額

2017年度：31,668千円

2016年度：29,782千円

2015年度：28,246千円

2014年度：23,235千円

2013年度：17,695千円

2012年度：15,309千円

2011年度：17,744千円

2010年度：20,504千円

2009年度：17,915千円

2008年度：15,621千円

2007年度：10,577千円

チャレンジドの一人平均月額賃金

2017年度：（雇用契約者）85,273円（非雇用契約者）51,705円

2016年度：（雇用契約者）86,857円（非雇用契約者）44,864円

2015年度：（雇用契約者）84,032円（非雇用契約者）36,006円

2014年度：（雇用契約者）77,898円（非雇用契約者）39,596円

2013年度：（雇用契約者）75,045円（非雇用契約者）35,019円

2017年度は、チャレンジドへの支払い総額が31,668千円となり、前年度に引き続き、過去最高を更新した。

業務内容によって受注量の増減はあるが、全体としては、順調に推移している。

2017年度中に3名、2018年4月から3名が非雇用から雇用契約となった。

非雇用で働き始めて、一年～二年程度、働く実績を積み重ねながら体力、スキルを向上させて雇用契約に移行していく流れが確立できている。

非雇用の形態を活用した就労支援は、札幌チャレンジドの人材育成の特徴となっている。職場に慣れる、仕事に慣れるステップアップの環境が大切である。

【チャレンジドが従事する主な業務内容】

- ① 動画サイト監視業務
- ② 航空券情報データベース入力業務
- ③ イベント情報データベース入力業務
- ④ S E O 関連業務
- ⑤ Web アクセシビリティ検査業務
- ⑥ リライト業務（原稿を必要な文字数で書き換える業務）
- ⑦ アンケートデータ入力業務
- ⑧ 商用イラスト作成業務
- ⑨ ホームページ製作・更新業務
- ⑩ テープ起こし
- ⑪ パソコン講習講師など

2. 就労移行支援サービス事業

2017 年度は、就労移行支援サービス利用者総数 17 名。その内、就職者数 6 名、体調等を崩して利用を止めた人 4 人、利用継続中 7 名。前年度同様、高い就職実績を維持した。

一方で、年度の後半に就職した人が集中したことで、2018 年度のスタート時点での利用者数確保がスムーズに進まないという新たな課題も生まれた。

定員が 10 名と少ないため、通年で安定した利用者の確保は、極めて難しい課題であるが、関係機関への丁寧な訪問、情報提供や情報発信で課題解決を進めたい。

また、札幌チャレンジドの就労移行支援の最大の特徴である、就職後の定着率の高さは、引き続き維持されており、90%を超える定着率を継続している。定着率が高い最大の要因は、人材育成の質の高さであり、今後もカリキュラムをさらに充実させて、企業が求める人材を育成していく。

2018 年度から始まる定着支援サービス事業への申請も行い、事業認可された。2018 年 5 月から実際のサービスを始めるべく準備を進めている。

3. パソコン講習事業

(1) パソコン講習

自前のパソコン講習は、ニーズが減退し、ほとんど開講しない状況となったが、視覚障がい者向け講習にはニーズがあるため、その準備を一年かけて進めた。

(2) 放課後等デイサービス事業

2017年4月17日からサービスを開始し、利用者は毎月順調に増え、2018年3月の利用者は、45名となった

こどもたちのパソコンを学ぶ意欲は高く、その意欲に応えるために講師陣が熱意溢れる講習を行っていることで、こどもたちや保護者の評価は、極めて高く、札幌チャレンジドの看板事業の一つとして急成長した一年であった。

2018年3月末利用登録者

小6	1		2%
中1	8		17%
中2	4		9%
中3	9	21	20%
高1	11		24%
高2	10		22%
高3	3	24	7%
計	46		100%
男	35		76%
女	11		24%
計	46		

(3) 札幌市障がい者ITサポートセンター事業（札幌市受託事業）

① パソコン講習会

札幌市身体障害者福祉センターにおいて、身体及び知的、視覚、聴覚、上下肢、盲ろう障害別に、32回の講習会を行った。

② パソコンボランティア派遣

2017年度の派遣回数は、341回であり、昨年377回より若干減少したが、通年でコンスタントに実施している。登録ボランティアも増えており、障害者支援、障害者理解に寄与する活動に成長している。

③ 相談業務

電話、メール、来所・FAX等で相談対応を行っている。ITが普及した現代

ではあるが、様々な相談が寄せられている。

4. 中期経営目標

2015年から2017年の3年間の中期経営計画の達成結果は、概ね以下のとおりである。

① MIX COMの具現化

新たな価値観として唱えるMIXCOMを常に意識して、MIXCOM的発想から活動を拡げていきます。

在宅就労の拡大、視覚障がい者の就職支援の開発、発達障害のグレーゾーンの若者の支援などに重点的に取り組みます。

⇒ 2015年度から札幌学院大学との連携を始めた。

2017年4月から障害のある中高生を対象とした放課後等デイサービスを開始した。

こどもから大人までのキャリアデザインセンターとしての位置付けを明確化することでMIXCOMの一つのカタチを社会に提示した。

② 就労継続支援A型事業の賃金総額の向上

就労継続支援A型事業（通所就労・在宅就労・パソコン講習）に従事するチャレンジドの賃金総額を向上できるように、新たな事業領域の開発に注力します。2017年度賃金総額3,200万円（2014年度比36%増）を目標とします。

⇒ 2017年度 3,167万円 目標比99.0%を達成

新規の仕事も増えている

③ 就労継続支援A型メンバーの人財育成

メンバーの能力、体力、経験など各人のレベルに即した人財育成を行います。働き続けたいくなる魅力的な職場となるように進化し続けます。

⇒ 一人ひとりの個性、得意を活かした業務分担（マッチング）を実施

④ 就労移行支援事業の安定運営の実現

毎年度、定員の40%以上の就職を実現します。

通年での利用者確保のために相談支援事業所やハローワーク等との連携を図ります。

⇒ 2015年度：5名が就職、定員の50%以上を達成

2016年度：5名が就職、定員の50%以上を達成

2017年度：7名が就職、定員の70%以上を達成
3年間、全ての年で目標を達成した。

⑤ 職員の人財育成

社外研修の活用など職員の人財育成のための研修体系を構築します。

職員が自発的に自己啓発に取り組む環境を整えます。

⇒ 2015年5月に「職員人財補助規程」を制定し、自己啓発を推進
各職員が外部の研修に積極的に参加した

5. 最後に

2017年度は、4月から放課後等デイサービスが始まり、毎日、中高生のこどもたちが通って来るようになり、札幌チャレンジの幅が大きく広がった年であった。こどもたちのパソコンを勉強したい熱意、意欲は、想像以上であり、講師をはじめ札幌チャレに関わる者たちに大きな刺激、チカラを授けてもらった。NPOとしてとても意義のある事業を始めることができた。

就労継続支援事業、就労移行支援事業は、共に着実な運営によって、それぞれにレベルの高い成果を実現することができた。放課後等デイサービス事業と合わせて三つの事業が三本柱として成り立つことで、「キャリアデザインセンター」としての存在感を発揮することにもなっている。

札幌チャレンジを必要とするチャレンジは、まだまだ世の中にはいるはずなので、発信力を高めて、より社会に貢献できるように切磋琢磨しなければいけない。

また2017年度は、2015年～2017年の中期経営計画（三ヶ年計画）の最終年度であり、前述のように全ての目標について、大きな成果を生むことができた。企業やボランティアさん、行政、マスコミなど札幌チャレを応援して下さる方々のお陰であり、そのご恩は、さらなる社会課題解決に寄与することで返していきたい。

そして、2018年度から2020年度の新中期経営計画では、札幌チャレンジならではの革新性を今一度、熟考して計画策定を行っていく。

【NPO 法上のその他の事業】

本年度は実施せず。

以上